

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0193600186), 法人名 (住拓工業株式会社), 事業所名 (グループホーム福寿草 ユニット1), 所在地 (北海道苫小牧市本幸町1丁目3番5号), 自己評価作成日 (平成29年11月28日), 評価結果市町村受理日 (平成30年1月18日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームでの生活においては心身共に健康に過ごして頂けることが最大の目標であり、その為には些細な体調の変化も見逃さない様、努めています。健康上の問題については早期に改善できるよう主治医や契約先の訪問看護ステーション、薬局等の医療関係機関との連携を図りながら受診の支援や連絡調整などを行っています。運営理念についてより各ユニット、各職員が意識しながら日々の介護にあたっていけるよう具体的な目標を管理者にて掲げ取り組んでいます。しかしながら職員の退職や人手不足等の問題により必ずしも適切な人員確保が出来ていない現状があり現場におけるサービスにも少なからず影響が出ていることは否めません。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL: http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_02_2_kani=true&JigvoosvoCd=0193600186-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (平成29年12月25日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR苫小牧駅から車で5分程の市内中心部に位置し、福祉センターや公園、商店が点在して生活環境に恵まれ利便性に優れた事業所である。2ユニットで平成22年に開設し8年目を迎えている。開設当初から携わっているホーム長は、事業所が目指すサービスの在り方を常に考えており、定期的に理念を具現化したユニット目標を掲げて職員の意識と統一したケアの実践に繋げる様に努めている。家族には月刊誌「福寿草」を発行し事業所での暮らしぶりを伝え、更に利用者其々に毎月、手紙を書いて健康状態や生活の様子を知らせるなど家族の安心に繋げている。事業所は協力医及び訪問看護師と連携し看取りケアの実践を重ねながら、利用者、家族の希望の終末期を支援する事で信頼を得ている。運営推進会議には町内会役員、市職員、家族の参加を得て定期的に開催し、事業所の運営状況や利用者に関するヒヤリハット、事故の事例など積極的に情報を開示し、透明性を図り、地域に開かれた事業所を目指し取り組んでいる。市とは、小学生を対象にした認知症キッズサポーター養成講座の開催に毎年協力し協働関係を築いている。ホーム長は更なる取り組みとして、理念に謳っている「利用者が安心して生活」の充実を図る為に、資質の高い介護を行う上での内部・外部研修の促進、地域住民との交流の機会を模索し、利用者が地域で暮らし続けるための基盤作りに努力する事を検討しており期待する処である。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff performance.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を基にした目標を期間を定め到達するよう努める事で実践につなげています。	ホーム長は、理念に対する職員の意識や目指す方向性を確認するために、理念を基にしてユニット目標を掲げるなど、統一したケアの実践に繋げる様に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームの行事や、運営推進会議等の参加を呼びかけていますが、日常的な交流はあまり出来ていません。町内会活動に参加するなど、その機会をどう増やしていくのが今後の課題だと思います。	町内会に加入しており、運営推進会議には町内会役員の参加を得ている。散歩時には近隣の住民と挨拶や会話を交わしたりと関わりが増えてきている。事業所行事の夏祭りには参加を呼びかけるなど、更に住民との交流を模索している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者はキャラバンメイトであり、要請に応じ地域の小学校等に出向き講座を行っています。他運営推進会議の際に入居者家族や町内会の方々へ事例を交え認知症の理解や支援状況について情報提供の場を設けています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度、実施しています。その中では事業所の運営状況、困難事例や健康状態を報告し、各参加者それぞれよりご意見を頂いております。介護スタッフへ内容を伝え、支援の向上に生かすようにしています。	運営推進会議は定期的に開催しており、事業所の運営活動や利用者の状況に伴う事故・ヒヤリハットなど報告し、看取りや避難訓練についても話し合い、参加者からの意見や情報交換が行われている。議事録は全家族に配布している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営や現場における課題が発生した場合はその都度、市担当者と連携し助言又は指導を頂いています。	管理者は、困難事項について担当窓口相談し指導を仰ぐなど、都度情報を共有し、より良い支援に繋げている。小学生を対象にした認知症キッズサポーター養成講座の開催に毎年協力している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関施錠は日中は行っていません。身体拘束廃止推進委員会を立ち上げており、事例またはその恐れが発生した段階で委員会を招集し、廃止または改善へむけての話し合いの機会を持っています。内容は全介護職員へ周知を図っています。	マニュアルを整備し、職員にも配布して身体拘束についての理解に努めている。日常のケア場面での利用者への対応や声掛けに問題が無かったかユニット会議で話し合い、更に身体拘束廃止委員会で事例を取り上げ検討し、学びに繋げている。玄関の施錠は夜間のみである。	全ての職員が身体拘束の弊害について正しく理解するために、定期的に勉強会を実施すると共に、外部研修にも参加を促し、常に新しい情報を取り入れ、更に内部研修にて情報を共有しながら、職員全体で共通の認識を深める事を期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	介護職員の間で各入居者様への職員それぞれの介護方法をチェックする意識を持つようにしており、出来るだけ多くの機会ですその是非について意見交換を行うようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援	管理者、職員間でそれらについての話し合いの機会は持てていません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者により実施されています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の他、面会などの折に直接ご家族様とのやりとりにて意見や要望などをお伺いする機会を設けております。	ホーム長は、利用者の家族に健康状態や生活の様子を手紙で毎月報告している。月刊誌「福寿草」も発行して、事業所の様子を伝えている。家族との対話を大切に考えており、来訪時や電話連絡時、介護計画作成時にも会議に参加を促すなど、意見、要望の聞き取りに努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	少し足りないと感じています。ユニット会議等で話合われた意見を取り入れていくようにしている。	ホーム長は事業所の全体像の把握に努め、管理者、ユニットリーダー、サブリーダーと共に職員の知識や技術習得に努めながら、職場環境の充実に取り組んでいる。職員は、ユニット会議にて意見、要望の提案を行いサービスに活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員数の不足している状態が継続しています。向上心を持てる環境か否かは各職員の判断によりますが、少なくとも現在の状態を早期に改善する事を希望します。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進め	全てにおいて課題であると思います。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	実施されていないと思います。現状では外部へ働きかけるにも入居者さんへの介護提供に余裕がほとんどなく、なかなかその機会が確保できない状態だと思います。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めています。	事前の情報収集に努めるなどしてサービス利用開始よりご本人様の安心感が確保できるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安なことや要望などを聞き取りし望ましい信頼関係の構築に至るよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実施されています。特に細かく観察する意識を持ち、何が必要かを見定める様にしています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩との意識を持ち、日常生活上での知識や知恵等を教えて頂いています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様との関係性維持の重要性をご理解いただく為にも面会に来ていただく機会をできるだけ多く確保して頂く事をお願いしています。また、サービス担当者会議等に出席して頂き、ご意見・ご要望を頂けるようお願いもしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの理髪店や飲食店に出かけることができるよう、家族の協力等も頂き支援しています。ただし要介護状態の悪化に伴い、関係性が途切れたりすることも少なからずあります。	自宅への帰省や墓参り、買い物などは家族の協力を得て支援している。友人や知人の来訪時には、居室やリビングなどで自由に寛いでもらい、利用者との絆が途切れない様に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様のそれぞれの関係性の把握に努め、入居者様の自主性や、職員が間に入る事によるなどして、それぞれの関係性を良好に保てるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームを退所された方々に対して必要に応じてのフォローアップは欠く事の出来ない支援であると認識しています。しかしながら具体的な該当ケースはありません。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望、意向の把握に努め、出来るだけ実現できるように努めています。しかし、ご本人に不利益となるような事は、ご本人やご家族に説明しそれに代替するものがないか検討しています。	居室担当職員を配置しており、利用者との日々の会話や日常の様子を観察する中で、思いや意向を汲み取りながら一人ひとりの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の会話や、ご家族様からの情報提供により把握するようにしています。入居時の聞き取りにてある程度確認できるような形にすべきと考えます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の観察により生活を円滑に送る事を阻害するような要因が発生していないか確認し、職員間での情報交換につなげています。ホーム独自のアセスメント用紙を作成し情報収集につなげるよう努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族に、サービス提供者会議に出席して頂けるようお願いするなど、家族の要望を含め介護職員間で意見を出し合い、定期的に見直しを行いながら現状に即した介護計画を作成するようにしています。	事業所独自のアセスメントシートを活用して、職員間で情報を共有し、サービス提供者会議で協議し新たな計画作成に繋げている。見直しは3ヵ月毎に行い、家族にも会議に参加を促し、利用者、家族の意向や思いに沿う計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録に変化や気づいたことなどを記し、職員間で共有するよう取り決めています。また、ホーム独自で作成したアセスメントシートを活用するなどしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員が対応できる範囲において実施しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の施設へ出かけるなどの事は行っています。職員の確保が十分にできれば可能な事も増えると考えます。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	急性期の症状が見られなければ、事業所の協力医へ主治医を変更していただくケースがあります。	入居時に協力医療機関での受診体制について説明し、家族の意向を受けて協力医への変更が殆どである。協力医への受診は職員が支援している。訪問看護ステーションとの24時間連携体制が確立しており常に情報を共有し、利用者の健康管理に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携加算算定条件として市内の訪問看護ステーションと契約を締結しています。毎週定期訪問による、又は24時間随時電話での健康相談に応じて頂いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを	情報交換に努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームを終末を迎える場として利用して頂ける事は入居時を含め、その兆候が僅かでも見られた際にも家族へ選択肢の一つとして情報提供しています。重度化したケースについて医療機関との連携など地域の機関と関係性を持つようになっています。	利用者、家族には、入居時に医療連携体制に伴う重度化及び看取りに関する指針の内容を説明し同意を得ている。状態変化時には再度、家族の意向確認を行い、医師、家族、職員と話し合い、今後の対応を検討している。職員は、訪問看護師の助言、指導を受け連携して看取りに取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習を受講する機会を持てるよう努め、今後は間を長くせずに定期的に受講する機会を設けたいと考えます。緊急時のマニュアルを定期的確認するようにしています		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な、様々な災害を想定し訓練を実施しています。近隣住民との協力体制が不十分と思えるので、今後の課題と思われれます。	今年度は5月と10月に昼・夜を想定して自主訓練を実施している。非常用備蓄品の確保と防災設備点検を定期的実施している。今年度は消防署員の指導や地域住民の参加協力には至っていない。	年に1度は消防署指導の下で訓練を行える様に工夫し、専門家の適切なアドバイスを受ける事を期待すると共に、地域住民との協力体制作りに取り組む事を期待する。また、事業所の環境に沿った自然災害訓練の検討も期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	指示的な言葉使いや、表現にならないように日々職員へは働きかけていますが、時として使ってしまう事が見受けられます。	ホーム長は、日常のケアサービスに於いて、言葉の内容や語調、声のトーン等にも、尊厳に配慮した対応を行う様に、機会を捉えて職員の指導に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉での表現だけではなく、様子などからも汲み取れるよう努めています。自己決定においては、その都度、選択肢をいくつか設ける形で指示的にならないよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り、入居者様一人ひとりの生活のリズムやペースに合わせた生活を送って頂けるよう努めていますが、ホームの都合に合わせて動いて頂く場合も少なからずあり、今後の課題と思われれます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整容や更衣の際に身だしなみや好みの服装など配慮し支援しています。パーマなどもご希望により訪問業者にて行って頂く等しています。メイクボランティア等の活用も考えています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現状の入居者様にあっては、準備や片付けを行って頂くのは難しく、それに代わる役割等を提供する必要があるものと考えられます。	日常の献立や食材の手配は職員が行っている。季節の行事や誕生日の献立に関しては、企画担当職員が利用者の嗜好を考慮して作成している。畑で採れた野菜も食卓に上り、食事中の会話が弾んでいる。調理準備は利用者の力量に応じて行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	出来る限りご自身の力で摂取していただく事を基本としていますが、時には介助により摂取していただく事で必要量の確保に繋がっています。健康状態等により、必要量確保が難しい場合は、医療機関と連携し改善に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず口腔ケアをその方の力に応じた支援方法で実施しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ひとりひとりの排泄パターンを考え、短い方はなるべく2時間を目標に声掛け、誘導を行っています。一時的な健康状態悪化により、オムツ使用を余儀なくされても、出来るだけ早期にトイレでの排泄を再開できるよう努めています。	利用者個々の排泄パターンをチェックして、その人なりのサインや動きを感じ取り、自尊心や羞恥心に配慮して、声掛けや時間誘導を行い、トイレでの排泄を支援している。出来る限り衛生用品の使用を無くす支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳やヨーグルトなどを提供しなるべく自力での排便に繋がるように考えておりますが、運動量の適切な負荷が課題です。特に症状が強い方はかかりつけ内科医等と連携し、内服薬の調整等を行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員体制やホームの都合により、時間帯を決めており、入浴の希望があってもお断りする事も少なからずあります。職員の体制確保や何らかの工夫を早急に行う必要があると思えます。	職員の配置が十分では無い現状では、利用者の生活習慣や希望に沿った入浴支援が出来ない時もあるが、週3回を目安に取り組んでいる。同性介助や二人介助を取り入れて、安心感への配慮に努めている。季節のゆず湯も楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	実際希望される方はもちろんの事、様子を観察しその必要性があると判断できる方へも支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬を防ぐ為、職員間で何重もの確認を行っています。服薬の内容をチェックできる仕組みを作っていますが、必ずしも職員全てが頭で覚え切れていません。頓服薬や定期薬が変更になった際は、必ず確認するように定めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様一人ひとりの役割等の把握に努め行って頂けるよう努めていますが、外出を伴う事は希望に叶う形ではなかなか実施できていないのが現状です。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホームの周りの散歩等は、日常的に行えています。移動手段を伴う普段行けない所への外出は、限られた入居者に偏ってしまい、その機会も少なく、職員の有効的な配置や、家族の協力を求め行うなど改善が必要と思われます。	利用者の介護度の違いと職員の配置が十分では無いので、利用者全員での外出は難しく、家族の協力を得て、個別対応で外食や外泊、墓参りなど支援する機会が多い。日常では近隣の散歩や畑作業で外気に触れたり、通院帰りに買い物や飲食を楽しむなど気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者本人でお金を自己管理されている方もいます。外出の際の買い物の機会です使えるよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の希望があればご家族に電話をかけて頂いています。年賀状作成の支援は行っていますが、手紙をやり取りするケースはありません。希望される方も特にいらっしゃいません。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせて室温、湿度に配慮している他、その方の身体的特徴なども考慮した椅子やテーブルの配置をしています。生活感、季節感についてその時々で飾りや掲示物を換える事もありますが、とかく長くそのままになってしまう事もある事が反省点です。	各ユニットのリビングは広くゆったりとしていて、明るく、湿・温調整も行き届いている。壁にはクリスマスグッズが飾られ季節行事を盛り上げています。キッチン是对面式で見守り易く、トイレは悪臭も無く清潔である。利用者は、食卓やソファ、窓際のカウンターなど、それぞれに寛げる空間を確保している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個人の居室があり一人になりたいとき、体調の変化がある時は居室内で過ごしていただいています。ほとんどの方が共有スペースで過ごされている事を多く見受けれます。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には使い慣れた、又は馴染みのある家具等を持ち込んでいただく事をお勧めしています。しかし各ご家庭の事情により必ずしもそうとはなってはいません。	各居室は8畳弱の広さがある。利用者は、使いなれた筆筒や収納ボックス、ベット、ハンガーラック等を揃え、家族写真や時計、カレンダーなど飾り自分の部屋を作り上げている。仏壇を持参した利用者は、お茶や水の供えも自由に行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯干し、お茶碗拭きなど体調を見ながら、時には介助や見守りなどといった具体的な支援により、出来る限り職員と一緒に行動するように努めています。		